

# 多彩な蹴り技 頂点狙う

初の南米開催となるリオデジャネイロ五輪への思いがあふれ出てくる。1月に岐阜県羽島市で行われたリオ五輪アジア予選(4月・マニラ)の日本代表最終選考会。男子58<sup>キ</sup>級で優勝した鈴木セルヒオ(大東大)は笑顔で語った。  
(森台正範)

## 男子58<sup>キ</sup>級 鈴木セルヒオ

### テコンドー

「リオなら両親も応援に来やすい。ポリビアにいる友達と『五輪に出る』と約束している。みんな来てくれると思う。リオに懸けています」

母ノルマさんはブラジルの隣国ポリビア出身。父の健二さんとともに現在もポリビア・サンタクルスで暮らし、日本食レストランを営む。

21歳の鈴木は日本より海外生活の方が長い。川崎市に生まれ、5歳のころ家族でポリビアに移住した。「兄が空手を習っていたので、自分も格闘技を」と探していたとき、テコンドーに出合った。「小さいころは体が弱かったけど、やり始めてから強くなった。蹴るのも楽しかった」。次第にのめり込んでいく。



リオデジャネイロ五輪のアジア予選代表になった鈴木セルヒオ。1月31日、岐阜県羽島市で

## リオへ ポリビアの友に 五輪出場約束

高校は単身でテコンドーの本場韓国の伝統校へ留学。3年間、練習に明け暮れた。スペイン語、韓国語、日本語を操る国際派。精神的にタフで、異国の地の寮生活も苦にならなかった。

卒業後日本に戻り、強豪の大東大へ。指導する金井洋監督は「入学したころは体が柔らかい、しなやかな選手。今はそれに力強さが加わってきた」と成長に目を細める。身長177<sup>キ</sup>。蹴り技は多彩で、得意の上段蹴りにはパワーがある。昨年3月の全日本選手権を制し、同6月の豪州オープンでは世界ランキング2位のドイツ選手を撃破。海外の舞台でも気後れすることはない。

「アジア予選で優勝して(五輪出場) 枠を取ることは当然のこと。南米は自由な雰囲気なので、リオは僕に合っている。金メダルを狙いたい」。ポリビアから駆けつける両親と友人から沸き起こる「セルヒオ」コールを浴び、まるでホームのような雰囲気の中、思い切り足技を繰り返す。既にリオ五輪のイメージはできている。